

(法第10条第1項第1号関係記載例)

特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を石川県金沢市北安江3丁目10番30号 幸ビル1階  
カエルデザイン合同会社内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条

この法人はフェアトレードの理念に基づき、フェアトレードを普及推進するための活動を推進することによって、発展途上国の生産者・労働者の生活向上及び公正な貿易・経済活動の実現に寄与するとともに、地産地消や種々の地域コミュニティ活動と連携して、金沢市のフェアトレードタウン認定を目指し、もって金沢SDGsの実現に資することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、その目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) まちづくりの推進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 国際協力の活動
- (4) 保健・医療又は福祉の増進を図る活動
- (5) 消費者の保護を図る活動

(事業)

第5条 この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
  - ① フェアトレード運動の啓蒙・普及に関する事業
  - ② 地域社会へのフェアトレード商品の普及と販売に関する事業
  - ③ 地域活性化の貢献に関する地元産品とのフェアトレード商品の開発・販売事業
  - ④ フェアトレードの広報と調査に関する事業
  - ⑤ 自治体との連携によるフェアトレードタウン認定に関する事業

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下

「法」という。)上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人、法人、学生及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人、法人、学生及び団体  
(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

#### 第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第12条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上
- (2) 監事 1名以上

2 理事のうち、1人を理事長、2人を副理事長とする。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が

1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第15条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第17条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第 18 条 役員は、その総数の 3 分の 1 以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前 2 項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第 19 条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

2 職員は、理事長が任免する。

## 第 5 章 総会

(種別)

第 20 条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の 2 種とする。

(構成)

第 21 条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第 22 条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第 48 条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第 23 条 通常総会は、毎事業年度 1 回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の 3 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 14 条第 5 項第 4 号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第 24 条 総会は、第 23 条第 2 項第 3 号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、第 23 条第 2 項第 1 号及び第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 30 日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第25条 総会の議長は、理事長とするものとする。

(定足数)

第26条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第27条 総会における議決事項は、第24条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第28条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第26条、第27条第2項、第29条第1項第2号及び第49条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

3 前2項の規定に関わらず、正会員全員が書面により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
- (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
- (3) 総会の決議があったものとみなされた日
- (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

## 第6章 理事会

(構成)

第30条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第31条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第32条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の2以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第14条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第33条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、第32条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第34条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第35条 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第36条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第35条第2項及び第37条第1項第2号の適用に

については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 37 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名、押印しなければならない。

## 第 7 章 資産及び会計

(資産の構成)

第 38 条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第 39 条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の 1 種とする

(資産の管理)

第 40 条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第 41 条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計の 1 種とする。

(会計の区分)

第 42 条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計及びその他の事業に関する会計の 2 種とする。

(事業計画及び予算)

第 43 条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第 44 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第 45 条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第 46 条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第 47 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

(臨機の措置)

第 48 条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第 8 章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 49 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合における、その種類その当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき事項に限る）
- (10) 定款の変更に関する事項

(解散)

第 50 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議

- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続き開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の3分の2以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。  
(残余財産の帰属)

第51条 この法人が解散(合併又は破産による解散を除く。)したときに残存する財産は、この法人と同種の目的を有する、特定非営利活動法人、公益社団法人または公益財団法人に寄付するものとする。

(合併)

第52条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の3分の2以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第53条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所の掲示場に掲示して行う。

## 第10章 雑則

(細則)

第54条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

## 附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	中 西 泰 仁
副理事長	中 谷 美 世 子
副理事長	高 原 幸 子
理事	川 崎 朱 美 子
同	中 村 直 子
同	安 達 忍

監事

栗 森 剛

- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 15 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から令和 7 年 3 月 31 日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第 43 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第 47 条の規定にかかわらず、成立の日から令和 7 年 3 月 31 日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

正会員入会金	0 円
正会員会費	2,000 円（1 年間分）
学生会員会費	1,000 円（1 年間分）高校生以下 0 円
法人会員会費	5,000 円（1 年間分）

(法第10条第1項第2号イ関係様式例)

役員名簿

特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会

役職名	フリガナ 氏名	住所又は居所	報酬の有無
理事長	中西 泰仁		無
副理事長	中谷 美世子		無
副理事長	高原 幸子		無
理事	川崎 朱美子		無
理事	中村 直子		無
理事	安達 忍		無
監事	栗森 剛		無

(法第10条第1項第5号関係様式例)

## 設 立 趣 旨 書

### 1 趣 旨

この法人はフェアトレードの理念に基づき、フェアトレードを普及推進するための活動を推進することによって、発展途上国の生産者・労働者の生活向上及び公正な貿易・経済活動の実現に寄与するとともに、地産地消や種々の地域コミュニティ活動と連携して、金沢市のフェアトレードタウン認定を目指し、もって金沢SDGsの実現に資することを目的としています。

### 2 申請に至るまでの経緯

「金沢のまちをフェアトレードタウンにしよう」という合言葉の下、市民、企業、お店、大学生、市民団体などの有志が集い、「フェアトレードタウン金沢推進委員会」という市民団体が2021年4月4日に発足しました。

自治体をフェアトレードタウンにするためには6つの条件を達成する必要があります。そのため、

- ① 「推進組織の設立」としてこの団体が発足
- ② 「フェアトレード運動の展開と市民の啓発」としてオンラインセミナーや、フェアトレード塾などの市民講座を年間2回以上開催
- ③ 「地域社会への貢献」として地域企業のフェアトレード商品の取り扱いを開始。
- ④ 「地域活性化への貢献」として地元企業とフェアトレード産品を使ってコラボした商品開発を行った。
- ⑤ 「地域の店（商業施設）によるフェアトレード産品の幅広い提供」として人口当たりの店舗数の調査。
- ⑥ 「自治体によるフェアトレードの支持と普及」として行政、議会を通じフェアトレード認定のための理解と推進運動を進めています。

これ等の活動を通じ金沢市のフェアトレードタウン認定に向けて更に幅広い活動を進めるため、今回、特定非営利活動法人として組織の信頼性、推進活動のスピードアップを図り、まずはタウン認定を目指す目標を定めているところです。さらにタウン認定後の安定した活動を進め、フェアトレード運動の浸透を深めるため今回の法人設立に至りました。

令和6年 11月 1日

特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会  
設立代表者 石川県金沢市長田2丁目23番16号  
氏名 中西 泰仁

(法第10条第1項第7号関係様式例)

令和6年度 事業計画書

法人成立の日から 令和7年 3月 31日まで

特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会

1 事業実施の方針

フェアトレードの普及、啓蒙活動を通じて、金沢市のフェアトレードタウン実現と継続を方針として活動する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込額 (千円)
・フェアトレード 運動の啓蒙・普及 に関する事業 ・地域社会へのフ ェアトレード商品 の普及と販売に関 する事業 ・地域活性化の貢 献に関する地元産 品とのフェアトレ ード商品の開発・ 販売事業	・フェアトレード フェアスタの開催 ・フェアトレード 塾（市民講座）の 開催 ・フェアトレード マルシェを通じた 啓蒙と商品販売 ・	5/11	金沢市庁 舎前広場	35ブー ス100 名	5,000名	400
		10月	金沢市役 所第2庁 舎	25ブー ス50名	600名	100
		9月 2月	石川県女 性センタ ー、他	各10名	200名	40
フェアトレードの 広報と調査に関す る事業	・フェアトレード 通信（広報誌）の 発行 ・フェアトレード 店舗調査	年2回 7月、2 月		10	1,000×2	50

自治体との連携によるフェアトレードタウン認定に関する事業	・イベントの行政後援事業 フェアトレードタウン他自治体との連携事業	8月、10月	国際交流祭り、金商デパート、いしかわ環境フェア、他	各5名	1,000	20
------------------------------	--------------------------------------	--------	---------------------------	-----	-------	----

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	支出見込額(千円)

(法第10条第1項第7号関係様式例)

令和7年度 事業計画書

令和 7年 4月 1日から 令和 8年 3月 31日まで

特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会

1 事業実施の方針

フェアトレードの普及、啓蒙活動を通じて、金沢市のフェアトレードタウン実現と継続を方針として活動する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込額 (千円)
・フェアトレード 運動の啓蒙・普及 に関する事業 ・地域社会へのフ ェアトレード商品 の普及と販売に関 する事業 ・地域活性化の貢 献に関する地元産 品とのフェアトレ ード商品の開発・ 販売事業	・フェアトレード フェアスタの開催 ・フェアトレード 塾（市民講座）の 開催 ・フェアトレード マルシェを通じた 啓蒙と商品販売 ・	5月	金沢市庁 舎前広場	30ブー ス100 名	5,000名	400
		11月	石川県女 性センタ ー	25ブー ス50名	600名	120
		9月 2月	石川県女 性センタ ー、他	各10名	200名	40
フェアトレードの 広報と調査に関す る事業	・フェアトレード 通信（広報誌）の 発行 ・フェアトレード 店舗調査	年2回 7月、2 月		10	1,000×2	50

自治体との連携によるフェアトレードタウン認定に関する事業	・イベントの行政後援事業 フェアトレードタウン他自治体との連携事業	8月、10月	国際交流祭り、金商デパート、いしかわ環境フェア、他	各5名	1,000	20
------------------------------	--------------------------------------	--------	---------------------------	-----	-------	----

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	支出見込額(千円)

令和6年度 活動予算書  
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで  
特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会  
(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費		
個人70×2,000	140,000	
団体4×3,000	12,000	
法人3×5,000	15,000	
学生4×1,000	4,000	
賛助会員受取会費	0	
.....		171,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	0	
施設等受入評価益	0	
.....		0
3 受取助成金等		
事業委託金(金沢市)	500,000	
受取民間助成金	0	
.....		500,000
4 事業収益		
5 その他収益		
受取利息	0	
雑収益	0	
.....		0
経常収益計		671,000
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	0	
法定福利費	0	
退職給付費用	0	
福利厚生費	0	
.....		0
人件費計	0	
(2) その他経費		
会議費	450,000	
会報発行、イベントチラシ		
ZOOM, マーケット設営費		
旅費交通費	160,000	
施設等評価費用	0	
減価償却費	0	
支払利息	0	
.....		0
その他経費計	0	
事業費計		610,000
2 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	0	
給料手当	0	
法定福利費	0	
退職給付費用	0	
福利厚生費	0	
.....		0
人件費計	0	
(2) その他経費		
会議費	75,000	
旅費交通費	0	
減価償却費	0	
支払利息	0	
.....		0
その他経費計	0	
管理費計		75,000
経常費用計		685,000
当期経常増減額		0
III 経常外収益		
1 固定資産売却益		
.....		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1 過年度損益修正損		
.....		0
経常外費用計		0
当期正味財産増減額		▲14,000
前期繰越正味財産額		0
次期繰越正味財産額		▲14,000

※ 当該年度はその他の事業の実施を予定していません。  
(その他の事業を定款で掲げていない法人はこの脚注は不要)

(注) 重要性が高いと判断される用途等が制約された寄附金等(対象事業等が定められた補助金等を含む)を受け入れる予定である場合は、「一般正味財産増減の部」と「指定正味財産増減の部」に区分して表示することが望ましい。

**令和7年度 活動予算書**  
 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで  
 特定非営利活動法人フェアトレードタウン金沢推進委員会  
 (単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費			
個人75×2,000	150,000		
団体5×3,000	15,000		
法人5×5,000	25,000		
学生5×1,000	5,000		
賛助会員受取会費	0		
.....		195,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	0		
施設等受入評価益	0		
.....	0		0
3 受取助成金等			
<b>事業委託金（金沢市）</b>	500,000		
受取民間助成金	0		
.....	0		500,000
4 事業収益			
5 その他収益			
受取利息	0		
雑収益	30,000		
.....			30,000
経常収益計			725,000
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
.....	0		0
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	450,000		
会報発行、イベントチラシ			
zoom, マーケット設営費			
旅費交通費	180,000		
施設等評価費用	0		
減価償却費	0		
支払利息	0		
.....	0		
その他経費計	0		
事業費計			630,000
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
.....	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	75,000		
旅費交通費	0		
減価償却費	0		
支払利息	0		
.....	0		
その他経費計	0		
管理費計			75,000
経常費用計			705,000
当期経常増減額			0
III 経常外収益			
1 固定資産売却益			
.....		0	
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1 過年度損益修正損			
.....		0	
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			20,000
前期繰越正味財産額			▲14,000
次期繰越正味財産額			6,000

※ 当該年度はその他の事業の実施を予定していません。  
 (その他の事業を定款で掲げていない法人はこの脚注は不要)

(注) 重要性が高いと判断される使途等が制約された寄附金等(対象事業等が定められた補助金等を含む)を受け入れる予定である場合は、「一般正味財産増減の部」と「指定正味財産増減の部」に区分して表示することが望ましい。